

報告タイトル (\* 日本語と英語両方ご記入ください)

中国における失業の消滅と現実—「精簡」政策の実施過程を中心に—

Reality Under the “Disappearance” of unemployment after 1958 in China: The Case of  
Urban Population Reduction in Shanghai

氏名 (所属)

許樂 (慶應義塾大学)  
XU Yue (Keio University)

要旨 (800 字程度)

1958 年、中国共産党は急進的な社会主義化路線へと舵を切る中で、失業の消滅を宣言した。それ以降 30 年以上にわたり、中国経済は社会主義イデオロギーの下、失業不在という虚構下に営まれたのであった。しかし、失業が消滅したはずの中国社会では、間もなくして都市部の人口削減を目的とする「精簡」政策が実施され、1961 年から 1963 年の間に、2,600 万もの都市人口が減少させられた。果たして、「失業の消滅」はどのような政治メカニズムによって演出されたのだろうか。

本報告は、この一見すると失業消滅の理想と相容れない「精簡」政策を、「失業不在」の計画経済時期における中国の労働体制を観察する重要な局面として捉え、中央レベルの政策構想の変遷と地方レベルの政策実施過程という 2 つの視点から、上海市を事例に、中央及び地方の公文書や定期刊行物を用いて、「失業消滅」とそれを演出し、維持させた政治的メカニズムを分析するものである。

本報告の結論は以下の通りである。第一に、「失業消滅」宣言に伴うイデオロギー上の制約は、中央及び地方レベルの諸アクターの行動に影響を及ぼし、「精簡」政策の実施主体と実施方法を規定した。第二に、揺れ動く中央の労働政策と強まる一方の精簡政策の圧力に対応するために、地方レベルには、政府、企業、基層社会組織、労働者の間にある種の共通利益に基づく関係が形成され、計画経済体制の外部に、労働力の流動を担保する空間が創出された。これは、「失業消滅」後の中国の計画経済体制の現実に迫る重要な特徴である。第三に、「失業不在」の演出は、「精簡」という擬似失業問題に対処する責任の所在を曖昧化し、地方レベル、個人レベルに多くの責任がのしかかる結果を導いた。この構造においては、労働者の直面する「精簡」リスクや「精簡」に伴う保障にも格差が生じ、労働者の間には一層不満が高まることとなった。